

イギリスにおけるモンテッソーリ教育運動 1919-1929

中田 尚美

はじめに

本稿は、イギリスにおける第一期モンテッソーリ教育運動を取り上げ、イタリアの教育思想家モンテッソーリ (Maria Montessori, 1870-1952) が初めてイギリスを訪問し、国際モンテッソーリ教員養成コースがロンドンで開催された 1919 年から 1929 年にかけての 10 年間の運動の展開過程について検討を行うものである。

1912 年以降イギリスに紹介されたモンテッソーリ教育は様々な検討、論争を経ながらも主としてイギリスの幼児教育界に受け入れられていく。1919 年には国際モンテッソーリ教員養成コースがロンドンで開催され運動の高まりを見せた。しかし、それとともに多くの問題点が明らかとなり、1921 年モンテッソーリ協会は分裂する。

協会が分裂した後も、アメリカのように急速に運動が衰退するという事にはならなかった。それは、隔年に開催された国際モンテッソーリ教員養成コースの開講中、モンテッソーリがイギリスに滞在して指導に当たり、普及活動にもたずさわったからである。また、コースと並行して、イギリス独自の講習会が開催され、幼児学校のみならず保育学校や初歩学校へとその適用を広げていく努力が続けられたからである。

ロンドンで行われた隔年の国際モンテッソーリ教員養成コースの準備と運営は、モンテッソーリの意向と方針に忠実な協会に残った人々によって進められた。1921 年以降、イギリスでのモンテッソーリ運動は国際モンテッソーリ教員養成コースを中心として、そこで取り上げられた講義内容を詳細に伝えるという形で進行していく。ロンドン・タイムズの教育版 (The Educational Supplement、以下 T.E.S と略記する) に掲載されたモンテッソーリ教育関係の

記事数を見ると、1920 年代は奇数年、つまり、国際教員養成コースが開設された年は、約 20 の記事が毎年扱われている。その内容としては、コースでのモンテッソーリの講義内容の紹介が半数以上を占めている¹。

国際教員養成コースは、イギリス国内より国外からの受講者の方が多かった。1920 年代後半以降には、様々な要因が重なり、イギリスのモンテッソーリ運動はニュースバリューを失い、衰退していく。1929 年に国際モンテッソーリ協会 (Association Montessori Internationale、以下 AMI と略記) が組織され、本部はベルリンにおかれた。イギリスのモンテッソーリ協会はその支部としての活動を展開するようになる。

本稿では、モンテッソーリ協会が分裂に至る経緯と分裂後の協会が 1929 年に AMI の支部になるまでの過程について考察する。

1 モンテッソーリのイギリス訪問と国際教員養成コースの開設

1918 年秋に大戦が終わると、延期されていたモンテッソーリのイギリス訪問とそこでの教員養成計画が実現されることになった。1919 年 9 月 1 日から始まる教員養成コースのために、ロンドンのマネージャーであるバング (C. A. Bang) が手はずを整え、マッケローニ (Anna Maccheroni) が一足早くロンドンに入り、公開用の教室を整備して彼女の到着を待った。

モンテッソーリは、8 月 30 日イタリア公使館員とモンテッソーリ協会幹部そして多数の教師たちに迎えられてロンドンに到着した。教員養成コースに対して 2000 人の受講希望者があり、その中から 250 人が選ばれて受講した。これらの受講者の中には自費で個人的に参加した者もいたが、教育院は 20 人分の奨学金を用意

して各地の教員養成大学からこの4か月のコースに参加しやすいようにした。また、イングランドやスコットランド各地の教育当局は、コース受講者に対して、その期間を有給休暇とするように配慮した。ロンドン州議会も多数の教師に講義と実習に必要なだけの休みを有給で認めた²。

このような公的援助がコース受講者に与えられたということは、モンテッソーリ教育に対する関心が高かったことと、それに対する期待が大きかったことを示している。イギリスにおける養成コースの内容は以下のようなものである³。

講義は全部で50時間であり、モンテッソーリ自身によって行われた。モンテッソーリはイタリア語で話し、ハッチンソンが通訳をした。講義に加えて、モンテッソーリと助手たちの監督のもとで50時間の教育実習と、認定されたモンテッソーリ・クラスでの子どもの観察が50時間行われた。受講生は、教具を使用した経験をもとにスクラップブックを作成し、筆記・口述両方の試験に合格した後、モンテッソーリが署名した資格証書(diploma)を受け取った。それは、モンテッソーリ・スクールを開き、そこで教えることができる資格を与えるものであるが、教師を養成する資格は与えないと明記されていた。

モンテッソーリは滞在期間中、コースの講義を担当しただけでなく、意欲的に活動し、ジャーナリストたちと話す機会を多く持った。9月から12月にかけてほぼ毎週T.E.S.紙上にモンテッソーリ教育の原理が紹介され、モンテッソーリの講義の概要が掲載された⁴。

ウエストミンスターで行われたモンテッソーリの公開講演には2700人が参加した。また、養成コースに参加できなかった1500人のために短期コースが開設された。モンテッソーリは、王立医学会(Royal Society of Medicine)の会合で講演し、文部大臣(the president of the Board of Education)を含む公式の晩餐会に出席し、オックスフォード学生クラブで(Oxford

Union Club)で講演するなど精力的に活動し、各地で熱烈に歓迎された。モンテッソーリと個人的に接し、彼女の話の直接聞いた人々は、これまで懐疑的であった人々も含めてモンテッソーリ教育に新たな関心を持つようになった。クレマーが指摘しているように、モンテッソーリと個人的に接した人たち、彼女を見たり聞いたりした者は、魅力と自信の混合という彼女の存在に引きつけられた。これは彼女の著書だけでは不可能なことであった⁵。

12月国際教員養成コースが終了し、モンテッソーリは一時帰国した。以後、教員養成コースは以後1938年まで隔年に開催されることになる。翌1920年1月モンテッソーリは再度イギリスを訪問し、リバプール、マンチェスター、バーミンガム、シェフィールド、リーズなど各地を講演旅行した。各地で似たようなパターンが繰り返された。つまり、市長主催の歓迎会が開かれ満員の会場で講演し、新聞記者とのインタビューに応じ、偉大な教育者と話したがる教師や親の群れにとりかこまれ、数か月を経ずにモンテッソーリ協会や学校が設立されていったのである⁶。

このように、1919年初めてイギリスを訪問したモンテッソーリは各地で熱烈に歓迎され、翌年も訪英、モンテッソーリ教育に対する関心は急速に高まった。1920年代はモンテッソーリの時代だったとコーエンは述べている⁷。1920年代のイングランドにおけるモンテッソーリ教育に対する関心の高まりについて次節で叙述しよう。

2.1920年代のイングランド

1920年代は、大正期新教育やワイマール・ドイツの新教育等、新教育が国際的に高揚し、第二次世界大戦が勃発する30年代をひかえ、一瞬の光芒をはなつた時期である⁸。当時のイングランドではデューイ(John Dewey, 1859-1952)、ドクロリー(Ovide Decroly, 1871-1932)、チゼック(Cizek)、ダルクローズ(Dalacroze)、

パークスト (Helen Parkhurst, 1887-1973) の教育思想や実践、ダルトン・プラン (Dalton Plan)、プロジェクト・メソッド (Project Method) などが紹介され、進歩主義教育運動が盛んであった。当時の進歩主義教育者たちはモンテッソーリの子ども尊重の態度や進歩主義的な言説から、モンテッソーリ教育を歓迎した。モンテッソーリは一斉授業のクラスを非難し、個々の子どもの自己教育を可能にする教具を開発した。子どもサイズ的环境を整えた。進歩主義教育者が用いた「知性」「潜在能力の開発」「性格」といったキー・ワードを教育の目標に掲げた。こうした状況の中で、様々な批判はあったとしても、モンテッソーリ教育の重要性和影響力は確立していったと考えられる。大塚忠剛が指摘するように「子ども中心主義教育の基盤がすでに敷かれていたところにモンテッソーリ法のシステムが入っていった⁹⁾」のである。この背景には、3R's や公開入学試験などを重視する中産階級による大歓迎という理由があった¹⁰⁾。

ここで、モンテッソーリを支持した進歩主義教育者の一人であるエンソア (Beatrice Ensor, 1885-1974) に言及しておく。エンソアは、1910年グラモーガンにおいて最初の女性視学官となり、イギリス教育院の視学官として多くの経験を積んだ。視察した大多数の学校における画一的な訓練形態を厳しく批判した彼女は、モンテッソーリ学校を訪問して、そこで活動 (activity)、自己発達 (self-development)、自己規律 (self-discipline) の機会が与えられていることに強い印象を受けた¹¹⁾。理想的な教育法を求めていたエンソアはモンテッソーリ教育に強い共感を覚え、以後積極的にモンテッソーリ教育を支持していく。

当時のイギリスには、エドモンド・ホームズ (Edmond G.A. Holmes, 1850-1936) が会長を務める「教育の新理想」 (New Ideals in Education) という組織があった。ホームズは1910年視学官を退いた後『教育の現状と可能

性』を著してイギリス新教育運動の先鞭をつけただけでなく、教育院の依頼を受けてイタリアの「子どもの家」を訪問し、モンテッソーリの教育方法をイギリスに紹介した人物である¹²⁾。彼は1912年連合王国モンテッソーリ協会 (The Montessori Society of the United Kingdom) を設立して会長となり、イギリスで最初にモンテッソーリ学校を創設した彼の友人ホーカー (Betraum Hawker) と共に1914年「教育の新理想」を組織し、「モンテッソーリ会議」を開催した。「教育の新理想」の年次会議ではモンテッソーリ法が大いに議論されており、エンソアは1916年「教育の新理想」年次会議から委員として活躍していた¹³⁾。

「教育の新理想」主導者ホームズらと活動する中で、彼女は「すべての子どもに内在する精神力 (spiritual powers) を解放することができれば、すべての人々が真の幸福を見出すことのできる新世界を創造することができる¹⁴⁾」という確信を持つに至る。その信念は彼女が属する神智学協会の教育部門である神智学教育組合 (Theosophical Fraternity in Education) の設立趣意と合致したものであった。

1917年、視学官を辞し、神智学教育組合の理事長となったエンソアは、レッチワースにある神智学派の新学校セント・クリストファー校 (St. Christopher School) においてモンテッソーリ教育を取り入れ、各地で新教育の啓蒙活動に専心した。

1920年1月には、エンソアは『新時代の教育』 (Education for the New Era) を創刊し、モンテッソーリ教育をはじめとする各国の様々な新教育の理論や方法を紹介することに努めた。

『新時代のための教育』の創刊号において、モンテッソーリ・システムは教育運動の中で最も貴重な要素であるとされている¹⁵⁾。創刊号にはモンテッソーリの片腕的存在であるクロード・クレアモント (Claude Claremont) による「モンテッソーリと新時代」と題する文が掲載された。続いて第2号、第3号、第4号と毎回モン

テッソーリ関連の論文などが載り、1921年に雑誌のタイトルを『新時代』(The New Era)と改めてからも1月、4月、7月の各号にモンテッソーリ関連の記事が掲載されたという¹⁶。

コーエンが指摘するように、モンテッソーリ法は、児童中心主義と伝統的な教材志向を巧妙に組み合わせた就学前の教育方法として注目された。アダムス(John Adams)やナン(Percy Nunn, 1870-1944)は個別教授(individualized instruction)をめざす運動は、モンテッソーリから大きな刺激とインスピレーションを得たと証言している。モンテッソーリの批判者であるボイド(William Boyd)でさえ、個別学習

(individualized learning)の指導者そして模範(exemplar)としてモンテッソーリが教育史に残るであろうということを認めざるを得なかった¹⁷。

しかし、このようなモンテッソーリ教育運動の頂点はどん底から遠くはなかった。1921年にはモンテッソーリ協会は分裂し、多くの会員が運動から離脱していくことになるからである。

3.モンテッソーリ協会の分裂

モンテッソーリの英国訪問を契機に、その教育に対する関心が高まる中で、これまで持ち越されてきた問題が改めて取り上げられるようになってきた。コースの終了にあたって次のような質問が出た。①モンテッソーリ教育の中で想像的活動と道徳教育の占める位置は何か。②クラスの適正規模はどのくらいか。③野外保育で実践できるものか。④保育学校でのリズム運動は適切なものか。これらの質問に関してモンテッソーリは説明を避けたが、その中でも想像性の問題とおとぎ話の扱い方が多くの者に納得しがたいものであったという¹⁸。

この想像性の問題とともに、教員養成をめぐる問題が再熱するようになった。1921年1月のモンテッソーリ協会の会合で、教員養成をめぐる問題が取り上げられ、議長のバルフォア夫人(Lady Betty Balfour)は次のように述べ、多

くの会員の賛同を得た。すなわち、モンテッソーリ教師が非常に少ないことは残念なことである。また、学生がその教育原理を知ろうとしても十分に知る機会がない。その最大の障害となっているのは、モンテッソーリ自身に直接養成されないかぎりモンテッソーリ教師になれないことである。すでに資格を持っている人に教員養成を委託することをモンテッソーリ博士に求めようではないか¹⁹、と。

この提案に対して、イギリス養成コースのオーガナイザーであるバングは、モンテッソーリの考えでは、これまでに養成コースを出たもので、他の人を養成出来る力を持っている人はまだいないとした。そして、モンテッソーリが毎年そこに数か月滞在できるような研究所を設立するための基金を集めることが教師を増やす最善の方法であるとモンテッソーリの考えを代弁した²⁰。

このバングの回答に対して多くの者が強い不満を持った。モンテッソーリ教育に対する関心が高まり、それを学びたい希望者が増大していたからである。「モンテッソーリはいたるところで自由の保障と自己発達の尊重を説いている。それにもかかわらず、なぜ教員の自由と自立性を認めないのか」と批判する者もいた²¹。

コーエンが指摘しているように、モンテッソーリ協会には当初から内輪同士の葛藤が存在していた。すなわち、バングやグラント牧師のような熱狂的な崇拝者と、モンテッソーリ法をイギリスの状況に合わせて柔軟に修正していこうとするホームズのようなプラグマティストとの間の葛藤である²²。前述した教員養成をめぐる不満を一つの契機としてモンテッソーリ協会の会員の中に分裂が生じてきた。それはモンテッソーリの指令を実行することが役目であると考える会員たちと、教育的グループとして自分たちの役割をもっと一般的に考える多数の会員たちとの間の対立だった。

1921年9月に開かれたモンテッソーリ協会の会合で、キミンズ博士は「モンテッソーリ運

動の将来」というテーマのもとに次のように話し、新聞で広く報道された。

「運動に人の名前がついていることは悲しむべき不幸である。なぜなら、教育に終局はなく、個々の教師は時代の進展に合わせて方法を変えていかなければならないからである。確かにどんな改革の計画にも教師のパーソナリティの反映があるにちがいない。それがなければ失敗に終わるだろう。しかしながら、もし最初の計画から生じる相違が大きくなったならば、元の計画の創始者の名前は省かれるべきである²³。」

このような運動に名前がつくことがより大きな運動への発展への障害になっているというキミンズ博士の見解に対して異議を唱える会員もいた。バングは、「協会後援で招かれたキミンズ博士が、その協会員に対して、その存在を負っている人の名前を使うことを悲しむべきとするとは奇妙なことである。モンテッソーリ協会は、その名前をつけた運動にその存在を負っているばかりではなく、会長にモンテッソーリを迎えているのではないか。²⁴」と不満を述べた。しかし大多数の会員は、モンテッソーリ教育の原理を出発点としながらもっと広い教育改革をめざし、方法と運動の分離の必要性を主張するキミンズ博士を支持した。

このようなキミンズ講演の知らせに対して、モンテッソーリは手紙を書き、「協会と運動から自分の名前をはずし、会長を辞任する」ことを申し出た²⁵。

モンテッソーリからの申し出に接し、委員会は二つに分裂した。一つは、彼女が絶交した多数の会員たちで、もう一つは彼女に忠実であろうとする少数の会員たちであった。

この後、さらに方法と運動をめぐる論争が展開されたが、結局、バング等を中心とするモンテッソーリに忠実な一団だけがモンテッソーリの名前の独占的使用権を保持し、他の多くの会員たちは脱会していった。

モンテッソーリ教育をイギリスに導入するのに大きな役割を果たしたホームズも、モンテッ

ソーリ運動から離脱していく。ホームズが主導者である新教育運動組織「教育の新理想」は最初、主にモンテッソーリ教育をテーマに取り上げていたが、次第にモンテッソーリから距離を取るようになり、パーカスト、ドクロリ、チゼック、シュタイナー（Rudolf Steiner, 1861-1925）の思想を積極的に受容し、それらについて盛んに論議するようになっていく²⁶。

1921年にモンテッソーリ協会が分裂した後、大多数の会員たちはより広い教育運動のなかでその教育の展開をめざすようになったのである

4. 全国モンテッソーリ・センターとその活動

協会が分裂した後も、アメリカのように急速にイギリスのモンテッソーリ運動が衰退するというにはならなかった。それは、隔年に開催された国際モンテッソーリ教員養成コースの開講中、モンテッソーリがイギリスに滞在して指導に当たり、普及活動にもたずさわったからである。また、コースと並行して、イギリス独自の講習会が開催され、幼児学校のみならず保育学校や初歩学校へとその適用を広げていく努力が続けられたからである。

ロンドンで行われた隔年の国際モンテッソーリ教員養成コースの準備と運営は、モンテッソーリの意向と方針に忠実な協会に残った人々によって進められることになった。

1920年12月、大英帝国及びアイルランドの各地にできていたそれぞれのモンテッソーリ協会から2名ずつの代表が選出され、全国モンテッソーリ・センター（National Montessori Center）が発足した。この全国モンテッソーリ・センターが中心となって、1919年以降、ロンドンで隔年行われるようになった国際モンテッソーリ教員養成コースの運営に当たるようになった。この組織は、1929年にAMIが設立され、イギリス支部となるまで、イギリス本国及びアイルランド各地のモンテッソーリ協会の中心的存在として活動を続けたのである²⁷。

1923年にはロンドンにおいてモンテッソーリ教育の作品展を開かれた。これは、イギリス、イタリア、スペイン、オランダ、フランス等諸国のモンテッソーリ・スクールでの子どもの作品を集めて展示したもので、4-5歳児の筆記体の書写や、年長児の幾何学図形を伴ったデザインや模様などからなるものであった。この展示会は、当時開催中であった国際モンテッソーリ教員養成コースの受講生のみならず、一般にも公開された。T.E.S.も写真入りで大きく取り上げ、その見事な出来栄を賞賛し、これは感覚訓練を含めたモンテッソーリ教育の成果であると報じた²⁸。

全国モンテッソーリ・センターは1920年代の約10年間、教員養成コースを開催し、各種の講習会を準備し、展示会を開き、教具の販売窓口となり、また情報の中心的機関として機能した。

さて、これまではモンテッソーリの直接の指導下でなければ教員養成は言うまでもなく、講習会の開催も許されなかったが、1925年初めてそれが可能になった。10月から12月にかけてクレアモントが講師となって、現職の教師が参加できるように金曜日の夕方5時45分から7回の連続講演を行う講習会が開かれた。内容は以下のようなものである²⁹。

第1回(10月30日)感覚訓練。主として感覚筋肉運動を目的とする諸活動と内的な目的を持つ諸活動。円柱さし、色板、幾何学的形態等。感覚訓練の価値と運動との関係。第2回(11月6日)読み書き。幾何学的挿し込みの感覚。滑粗板。移動アルファベットでの作文。書くことへの爆発。単語、文章、本を読むこと。声を出して読むことと演劇的活動。第3回(11月13日)算数。初期の感覚教具の価値。長い階段による数え方の学習。紡ぎ棒箱。カード。ゼロ遊び。最初の計算。第4回(11月20日)美術。最初のデザイン。第5回(11月27日)音楽。分析と総合。線上の行進。リズム活動。音楽鑑賞。音感ベル。音符の名前の学習。楽譜の書き

方。作曲。第6回(12月4日)自由と規律。モンテッソーリの自由の概念。第7回(12月11日)英語のスペルの難しさ。

講義内容を見ると、3R'sに関する技術的なものが中心を占めており、きわめて実践的なものとなっていることが分かる。また、モンテッソーリ教育の最初の体系になかった音楽や美術がそこに含まれるようになっていく。これは、林が指摘するように、イギリスの教育への適用を考えると、音楽や美術等の芸術的側面を無視することができなかったことと、モンテッソーリ自身が教育体系の中に芸術的側面を取り入れることに取り組むようになったことによるのであろう³⁰。

この講習会を最初のものとして、イギリス各地において各種の講習会が開かれるようになる。1926年、ホワイト博士(Dr. Jessie White)が「モンテッソーリ教育の特徴とそれをイギリスの学校にいかに応用するか」のテーマのもとに連続講義を行った。また、ロンドン大学教授ナン博士による6歳から12歳までの学童を対象とする上級モンテッソーリ法に関する連続講義も行われた³¹。

その後、1926年クレアモントによる2年間の全日制モンテッソーリ予科養成コースが開設されることになった。この全日制予科養成コースが1929年にモンテッソーリ教員養成カレッジ(Montessori Training College)へと昇格した。これは2年間のコースを主体としながら、3年間のコース、1年間のコース、補助的特別コースの4つのコースをもつものである。モンテッソーリによって隔年開かれている国際コースに出席しなければならないが、養成カレッジのコースを終了し、試験に合格した者にはその証明書が授与されるものであった。イギリスにおけるモンテッソーリ教員養成は、完全に自立したとは言えないまでも、しっかりした基盤を持つようになったのである³²。

5.国際教員養成コースの内容

イギリスにおけるモンテッソーリ教育への関心は、当初から自己教育の原理に向けられていたが、それとともに教具と3R'sの学習効果にも向けられていた。幼児学校の教師の多くは、自由を許容する中で子どもの自主性を育てていく教育形態を学ぶとともに、感覚教具から砂文字や数の棒へと発展していく教具の系列にも関心を持っていた。

1921年夏、ハーペンデンにある聖ジョージ学校(St. George School)にモンテッソーリ部門が設けられ、クレアモントが責任者となって初等学校にモンテッソーリ教育を適用する実験を開始した。同種の部門が1923年には、レッチワースにあるセント・クリストファー学校にも設けられた。

このような動向を反映して、国際教員養成コースの講義内容も教科教育のあり方とその指導法に重点が置かれるようになってきた。国際教員養成コースで取り上げられた講義内容には、以下のようなものがある。

まず、文法の教育について見てみると、品詞の学習のために、名詞は黒、動詞は赤、形容詞は褐色といった色分けしたカードを用い、そのカードで文を構成する活動を通して、品詞の特性と役割を学習していく指導方法が取り上げられた³³。

次に、読み書きに関して、モンテッソーリ教育のイギリスへの導入時には、イタリア語の表記文字と英語の違いに伴う困難が指摘されていたが、この時期になると、英語の特徴に合わせた指導方法の開発が進められている。例えば、発音において共通性を持つ子音や母音(ch, sh, ea, etc)を抽出し、それを単語カードにまとめ、発音と綴り字の学習を平行して進めていく方法が紹介された³⁴。

文学の指導については、モンテッソーリは依然としておとぎ話は子どもに不適切であると考えており、12歳以前の子どもには詩を読ませるよう主張する。それは、古典詩が素晴らしいリ

ズムを持っており、子どもの心に直接訴える力を持っているからである。そして、作詩や作文の真の学習はそれを強制されたところに成立するものではなく、優れた詩に多く接する経験を通して自然と生まれてくるものであるとしている³⁵。

読みの指導に関しては、次のような主張を展開した。大きな声を出して本を読ませるイギリスの古いタイプの教育は改められなければならない。音読を強制することによって、子どもに本を読むことへの嫌悪感を植えつけていることに教師は気づかなければならない。モンテッソーリによれば、読み方の教育は、細長い紙片に短い文を書き、それを子どもに渡し、その文意に従って行動することを求めることから始めるのがよい。読むうえで大切なことは、そこに書かれている文意を正確に把握することであり、意味を十分につかむことなく声をだして読みあげるとは意味がない。このような経験を通して、子どもはごく自然に声を出して読むようになるものであるとしている³⁶。

また、読み方の教科書について、もっと分冊化し、絵をたくさん入れて子どもにとって楽しいもの、魅力的なものとなるよう改善されなければならないと指摘している。それに加えて、読み方の教育は教科書の中だけにあるのではなく、教育環境全体を考えること、例えば教師は、優れた詩句を美しく印刷して、教室の壁に貼っておくといった工夫をすべきである³⁷。

最後に算数の教育についても、教員養成コースで頻繁に取り上げられるようになった。量と数との関係について、一般に数えることの指導が先であると考えられているが、モンテッソーリによれば、数は抽象性が高く、量は具体的である、そのため、具体的な量との関係の理解の中から、数が明らかになる、という。それゆえ、数をビーズによって表わし、そのビーズの長さを数の具体物として量的に把握したとき、抽象的な数の理解が可能となるとしている³⁸。

また、一般には加減乗除の計算が少しでも早くできるようになることを目指して行われているが、それは算数教育の正しいあり方とは言えない。モンテッソーリ教育においては数の本質、性質を理解することを目指して算数教育が行われる。具体的には、ビーズを使い、10進法の法則性を体験することによって理解させようとするものである。このような数についての基本的理解が、結果的には計算の速さ及び正確さにつながるとしている³⁹。

このように、1920年代のコースの内容は、モンテッソーリ教育がイギリスにおいて初歩学校への適用の検討が進められてきたこととも呼応して、教科教育に関するものが多くなり、きわめて実践的な色彩を強めてきた。イギリスの幼児学校、初歩学校の教師は、このようなコースに参加し、その学びをそれぞれの場で実践の中に生かしていったと考えられる。

当時モンテッソーリ教具を採用した学校では、多くがそれを改造するとか特定の子どもの興味や能力に合わせて使用するよう工夫した、という⁴⁰。マクミラン(Margarett McMillan)もスーザン・アイザックス(Susan Isaacs)もモンテッソーリ法をその教育プログラムに受容した人たちであったが、紙面の関係上、彼らとモンテッソーリ法との関連については稿を改めて論じることにした。

6.新教育連盟とモンテッソーリ教育運動

1921年8月「教育を通して世界の平和を促進させる国際的団体を創設⁴¹」しようとする観点をもって、「新教育連盟」(The New Education Fellowship, 1921-1966)の第1回国際会議がフランスのカレーで開かれた。会議の主導者はエンソアであり、それまで個々に活動していた世界各国の新教育運動活動家、提唱者がこの会議に参加することになった。

連続講演の主なテーマは、「子どもの創造的自己表現」であった。教育改革について異なる

見解を持つ様々な国籍の人々が一堂に会し、互いに知識を広め、見解を拡大する機会を持った。

この会議にはクレアモントがモンテッソーリの代理として出席した。彼はその席上、自己表現は安易にモンテッソーリ教育と調和する概念ではないこと、いかなる子どもも指導者も自分自身を表現する十分な機会を得ていないこと、科学的方法によって子どもの全環境が十分に準備されてはじめて想像力を期待できること、モンテッソーリ博士の偉大な成果は、子どもたちが大人の圧迫から解放され、子どもたちが学ぶ必要のあるものを喜びをもって自発的に学ぶという方法を実行したことにあると主張した⁴²。

自己表現が教育目的理念として肯定されるにしても、それは学びとられるべきものであって、それ自体を目的として掲げることはモンテッソーリ教育法に矛盾するというクレアモントが提出した疑義は、席上イギリス側から強く反駁されたという⁴³。

以後、新教育連盟主催の国際会議は、会を重ねるごとに参加国も人数も増加していった。しかし、モンテッソーリ運動は新教育運動の一翼を担うというよりは、その独自の歩みを進めていく。

1926年、国際モンテッソーリ教員養成コースの卒業生から成る「モンテッソーリ同窓会」(Montessori Alumni)がロンドンに結成された。その1927年の年次会合に出席したモンテッソーリは、「この会合が他の教育運動が持っているような国際会議へと発展してほしい」とその抱負を述べている⁴⁴。

1929年、第5回新教育連盟国際会議がデンマークのエルシノーアにおいて開かれた。この会議では、当時関心を持たれていたモンテッソーリ法、ドクロリー法、ダルトン・プラン等が取り上げられた。その際、新教育連盟会議の一部をなすものとして、モンテッソーリ教育をまだよく知らない人々のための短期学習コースが

開かれ、モンテッソーリがその公開講義を担当した⁴⁵。

この第5回新教育連盟国際会議開催中に、最初の「国際モンテッソーリ会議 (International Montessori Congress) が開かれ、これを契機として「国際モンテッソーリ協会」が設立された。会長はモンテッソーリであり、本部はベルリンに置かれた。その目的は、世界各国のモンテッソーリ・スクールとモンテッソーリ協会及び教員養成を指導管理することであった⁴⁶。

この1929年は、イギリスにおいて養成カレッジが設立され、国際モンテッソーリ協会が発足し、国際モンテッソーリ会議が開催されるようになったという意味で、モンテッソーリ教育運動にとって画期的な年であった。しかし、イギリスにおいては、モンテッソーリ教育に対する人々の関心は低下していき、代わって保育学校運動やパーカストによるダルトン・プランなどの新しい教育運動が脚光を浴びるようになる。1930年代以降のイギリスにおけるモンテッソーリ教育運動については稿を改めて論じることにはしたい。

註

¹ 林信二郎「イギリスにおけるモンテッソーリ運動に関する研究—1920・30年代を中心として—」埼玉大学紀要 教育学部 (教育科学) 第29巻 1980 pp.51-52

² T.E.S September 4 1919 .453 Dr. Montessori in London Opening of the Training Course

³ Rita Kramer, *Maria Montessori : A Biography*, New York ,Putnaum's Sons,1976 p.256

⁴ T.E.S.の編集者の一人であるシーラ・ラディス (Sheila Radice) は、モンテッソーリがイギリスに滞在した1919年の9月から12月にかけて一連の好意的な記事を書いている。これらの記事は、翌年『新しい子どもたち—モンテッソーリとの対話』(*The New Children : Talks with*

Dr. Maria Montessori) という本になって出版された。

⁵ Rita Kramer,op.cit.,p.264

⁶ Rita Kramer,op.cit.,p.256

⁷ Sol Cohen, *The Montessori Movement in England,1911-1952,History of Education* ,1974 ,vol.3,No.1, p .57

⁸ 三笠乙彦『自己表現の教育学』明治図書出版 1985 p.10

⁹ 大塚忠剛『アイザックス幼児教育論の研究』北大路書房 1995 p.118

¹⁰ Nanette Whitbread , *The Evolution of the Nursery- Infants School : A History of Infant and Nursery Education in Britain 1800-1970* ,London Routledge&Kegan Paul 1972 p.94

¹¹ William Boyd and Wyatt Rawson, *The Story of the New Education* 1965,Heinemann, London, p.67 邦訳『世界新教育史』玉川大学出版、1975 p.129

¹² 彼が著したモンテッソーリに関する報告書『モンテッソーリの教育システム』(*The Montessori System of Education*)は瞬く間に完売し、モンテッソーリ法はイギリスで脚光を浴びることになった。

¹³ 山崎洋子「イギリス新教育運動の諸思潮とネットワーク」『教育新世界』No48、2000 p. 17

¹⁴ William Boyd and Wyatt Rawson ,op. cit., p.67 邦訳、pp.129-130

¹⁵ Sol Cohen, op. cit.,p.57

¹⁶ 岩間浩『ユネスコ創設の源流を訪ねて—新教育連盟と神智学協会—』学苑社 2008 p.130

¹⁷ Sol Cohen, *The Montessori Movement in England,1911-1952,History of Education* ,1974 ,vol.3,No.1, p .57

¹⁸ T.E.S December 18 1919 p.635 *The Montessori Method Some Conclusions*

¹⁹ T.E.S January 13 1921 p.21 *Montessori Society*

²⁰ T.E.S January 20 1921 p.29 *The Montessori Method*

²¹ T.E.S February 3 1921 p.48 *Montessori Principles*

²² Sol Cohen, op. cit.,p.60

²³ T.E.S October 1 1921 p.436 *The*

Montessori Society

²⁴ T.E.S October 15 1921 p.456 The

Montessori Method

²⁵ T.E.S December 17 1921 p.564 The

Montessori Society

²⁶ 山崎洋子「『教育の新理想』と新教育連盟

に関する考察」『日本の教育史学』第41集

pp.197-198

²⁷ 林、前掲書、pp.52-53

²⁸ T.E.S June 30 1923 p.307 Montessori

Work Exhibition in London

²⁹ T.E.S October 24 1925 p.444 Montessori

Method

³⁰ 林、前掲書、p.54

³¹ T.E.S January 23 1926 p.8

Montessori Society

³² 林、前掲書、p.55

³³ T.E.S June 30 1923 p.310 Montessori

Lectures

³⁴ T.E.S July 7 1923 p.326 Dr. Montessori

on English Spelling

³⁵ T.E.S July 14 1923 p.333 Literary

Development

³⁶ T.E.S July 4 1925 p.287 Children's

Reading

³⁷ Ibid.

³⁸ T.E.S June 4 1927 p.260 First Ideas of

Number

³⁹ T.E.S June 11 1927 p.271 Teaching

Arithmetic

⁴⁰ D.E.M.Gardner J. E.Cass, *The Role of*

the Teacher in the Infant and Nursery School,

Oxford Pergamon Press 1965 p.2

⁴¹ William Boyd and Wyatt Rawson,

op.cit.,p.69 邦訳 p.134

⁴² William Boyd and Wyatt Rawson,

op.cit.,p.71 邦訳 p.138

⁴³ 三笠、前掲書、p.75

⁴⁴ T.E.S June 18 1927 p.282 Conference of

Montessori Students

⁴⁵ T.E.S September 7 1929 p.390 Dr.

Montessori in Denmark

⁴⁶ Rita Kramer,op.cit.,p.305